

記入日 24年12月25日

1. 概要

実践団体名	秋田県大館市立第二中学校		
連絡先	0186-48-2935		
プランタイトル	アヤメの里の防災リーダー目指して ～雨にも負けず雪にも負けず～		
プランの対象者※1	中学生，保護者 地域住民	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し，記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し，記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ・地域住民の防災意識や実践力を高めるために，中学生が地域の防災リーダーとして，防災活動を企画・運営していける力を身に付ける。
- ・災害時，学校が地域の避難場所として機能するため，避難所運営のための知識や実践力を身に付ける。
- ・地域産業における防災活動を理解し，人災等の二次災害を防ぐための努力を学んだり，提言としてまとめたりする。

【プランの概要】

- ・生徒を中心とした防災活動検討委員会を組織し，地域住民と共に地域防災組織を立ち上げ，地域に根ざした防災活動に取り組む。
- ・避難所コンテストや炊き出し訓練など，学校が避難所となったときの役割や運営の仕方を考える。
- ・地域産業を訪問し，地域産業が取り組む防災について学習を深める。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・地域住民との交流が進み，地域の防災意識が高まる。また，「地域力」として，中学生が必要な人材となり，地域を活性化させる役割を担う。
- ・災害時に対応する知識や実践力が身に付き，地域に貢献できる。
- ・地域産業を理解することで地域愛を育むことができる。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	・防災活動検討委員 会の設立	・防災活動検討委員会 の役割について確認 ・年間活動計画の立案	・第 1 回防災活動検討委員会の実施 ・町内班会
5 月		・学年行事の準備 ・避難訓練の準備 ・地域の防災組織立ち 上げに向けて、地域 の代表者と検討	・修学旅行でのそなエリア見学 ・エコシステム花岡訪問 ・第 1 回避難訓練 学校報「あやめ」の発行
6 月		・地域防災組織立ち上 げの準備。消防隊員 による助言の依頼	・地域防災組織の立ち上げ
7 月			・小学校との交流 I
8 月		・防災マップバージョ ンアップの構想検討	・A E Dを含む救急救命講習 ・地域防災活動 I ・避難所モデル・プランコンテスト ・着衣水泳学習 (保健体育)
9 月	・後半プランの見直 しと計画	・学校祭での防災展準 備	・地域防災活動 II ・地域防災活動 III ・防災マップバージョンアップ
10 月		・炊き出し訓練に向け て自衛隊員と素案の 検討	・学校祭での防災展 ・炊き出し訓練
11 月			
12 月	・プランのまとめと 振り返り	・防災マップ DVD 化 の準備	・小学生との交流 II
1 月		・避難訓練の準備	・防災マップ DVD の制作 ・第 2 回避難訓練, 防災講演会 ・防災グッズの制作 (技術・家庭)
2 月			・放射能に関する学習 (理科)
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	町内班会（町内の危険個所確認と緊急連絡網づくり）
実施月日（曜日）	平成24年4月10日（火）
実施場所	大館市立第二中学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波 卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 その他学校内での時間
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	地域における危険個所、避難場所を確認するとともに、緊急時に備え連絡網を整備する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 防災活動検討委員会（生徒主催）にて、町内班会の進め方を確認した。 当日 地域防災マップを活用し、地域の危険個所や避難場所を確認した。その後、緊急時に備え、町内の連絡網を整備した。 事後 各自で町内の危険個所や避難場所を確認した
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒、全職員 ・防災マップ
参加人数	168名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 新入生に対し、地域の危険個所や避難場所を教えることができた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	修学旅行でのそなエリアの見学と災害の疑似体験
実施月日（曜日）	平成24年5月24日（木）
実施場所	東京臨海広域防災公園「そなエリア」
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波 卓美 所属・役職等：3年部主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 3 体験学習
活動目的※5	5 災害を疑似体験
達成目標	災害時における行動について学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 そなエリアについてどのような施設なのかを学習した。 当日 災害後の3日間の行動について疑似体験した。 事後 総合的な学習の時間において、新聞形式にまとめた。 全校発表会で、代表のグループが全校生徒の前で発表した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・第二中学校3年生徒 ・3年部職員
参加人数	60名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 災害発生時の疑似体験ができ、映像による学習による思考もでき有意義であった。 【課題】 体験したことを日常の生活にもつなげて生かしていけるようにしたい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	エコシステム花岡訪問
実施月日（曜日）	平成24年5月22日（火）
実施場所	大館市花岡町字堂屋敷30-2
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：加藤 達美 所属・役職等：1年部主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	13 体験学習
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	エコ産業と防災についての関わりを学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 エコリサイクルがどのような会社なのか情報を集め、知りたいことをピックアップした。 当日 工場内を見学し、地域産業の実態とそこで働く人たちの努力によって人的災害を未然に防ぐ取り組みを学んだ。自然災害に限らず、人的被害についても学ぶことができた。 事後 総合的な学習の時間に、個人新聞を作成し学んだことをまとめた。 学校祭で、プレゼンテーションや寸劇を効果的に入れて、学んだことを発表した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・第二中学校1年生徒 ・1年部職員
参加人数	60名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 学校生活で身に付けたことが、社会に出ても重要であることを実感できた。 【課題】 実感したことを日々の生活に自主的に生かしていくこと。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	避難訓練（地震）
実施月日（曜日）	平成24年5月29日（火）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波 卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害想定した訓練
達成目標	災害時における避難の仕方や行動について学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 緊急地震速報を受けた場合の対処の仕方について学習した。 当日 大地震が発生し、緊急地震速報を受信にしたところから、実際の避難まで訓練した。 事後 日頃の地震対策と避難の仕方や頭を守る大切さについて確認した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒、全職員 ・大館広域消防署北分署 消防士（2名） ・ハンドマイク、担架、避難誘導旗、ヘルメット
参加人数	170名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】生徒が考案したヘルメット着用により、より安全な避難が可能になった。 【課題】緊急地震速報を受けた後、身の安全の優先順位について検討を要した。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	地域防災組織の立ち上げ
実施月日（曜日）	平成24年7月4日（水）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波 卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域の防災リーダーとしての自覚を育むとともに実践力を身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 防災活動検討委員会にて地域防災活動の進め方を検討した。 当日 地域防災活動実施に向け、生徒と大人の町内会長が話し合いを行った。 事後 各町内の活動内容を掲示物やおたよりに載せて周知した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒、全職員 ・大館広域消防署北分署 消防士2名 ・大館市教育委員会地域コーディネーター ・地域住民16名
参加人数	187名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】地域の一員と地域での防災リーダーとしての自覚をもたせることができた。 【課題】地域防災活動日までの、意欲の継続と活動内容の在り方。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	小学校との交流 I
実施月日（曜日）	平成24年7月17日（火）
実施場所	大館市立積迦内小学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波 卓美 所属・役職等：3年部主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	異年齢集団との交流と地域防災に関する情報の共有する
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	事前 小学校町内班会での中学生の役割を確認し合った。 当日 防災マップを持参し、地域の防災に関する情報を伝達し、低学年児童と集団下校を行った。 事後 自分たちより弱い立場にある人たちへの関わり方について確認した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・第二中学校3年生，3年部職員 ・積迦内小学校全校児童，全職員 ・地域住民
参加人数	350名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】緊急時の対応として小学生と共に下校する体制が築けたこと。 【課題】緊急時，小中学生で集団下校する際の保護者等への連絡体制の在り方。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	A E Dを含む救命講習会
実施月日（曜日）	平成24年 8月 1日（水）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：永井 千鶴子 所属・役職等：養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会
活動目的※5	7 技術を身につける
達成目標	心肺蘇生法と自動体外式除細動器（A E D）について理解を深める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1 講師紹介 2 応急手当の目的・必要性についての講話 3 実技（グループごと）①心肺蘇生法 ②A E Dの使用法 4 保健委員会の寸劇と感想発表 5 事後指導（ワークシートへの記入）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・大館市消防本部より講師5名 ・訓練用人形，訓練用A E D，講習テキスト
参加人数	生徒34名，教職員8名，地域の方々24名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】生徒，教職員ならびに地域の方々も一緒に講習を受けたことで，地域全体の防災意識が向上された。 【課題】教科との関連を図りながら，より効果的に実践力を高めたい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	避難所としての学校（避難所モデル・プランコンテスト）
実施月日（曜日）	平成24年 8月20日（月）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：高清水 三奈子 所属・役職等：教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	夏休み中
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 ワークショップ
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	学校が避難所になった場合の在り方について考える
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	事前 避難所の現状と不便さについて理解を深める。 実際 快適に過ごせる避難所の在り方を空間・人の観点から考え、レポートにまとめる。 事後 学校祭にて展示し、優秀な作品を選出し表彰する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒 ・大館市消防本部より「避難所」に関する情報を提供いただく
参加人数	全校生徒148名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】避難所生活の大変さを理解し、中学生ができることや避難所としての学校の活用例など具体的なイメージをもつことができた。 【課題】避難所に対するイメージづくりのための資料や情報が思ったより少ないこと。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 9 】※3

タイトル	地域防災活動 I
実施月日（曜日）	平成 24 年 8 月 22 日（水）
実施場所	各町内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：成田 佳 所属・役職等：生徒会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 × 50 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域防災活動を通して、防災についての地域力を向上させる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 地域防災組織を立ち上げた際の確認事項について、町内班長を通して周知した。 当日 町内毎に計画した防災活動を地域住民と共に行った。 事後 地域防災活動の意義と地域連携の大切さを再確認した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒、各町内会長さんをはじめとする地域住民
参加人数	全校生徒 148 名、教職員 20 名、地域住民 76 名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 地域防災活動の内容に、町内毎の工夫が見られた。地域住民との交流が図られた。 【課題】 消火器等の用具の確保と指導者の確保。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 10 】※3

タイトル	地域防災活動Ⅱ（ふるさと学習）
実施月日（曜日）	平成24年9月11日（火）
実施場所	各町内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：伊多波 卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	終日
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	地域行事に参加することで、地域の情報を得たり、異年齢交流を深めたりする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 地域行事と防災についてのかかわりを防災検討委員から周知した。 当日 地域行事に参加し、一人暮らし老人宅や空き家などの情報を得た。 事後 地域で得た情報と防災マップの関連について検討した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒，教職員，町内会長さんをはじめとする地域住民
参加人数	全校生徒148名，教職員20名，地域住民103名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】様々な地域情報を得ることができ、地域への理解が進んだ。 【課題】地域情報の集約の仕方と防災マップへの関連づけ。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 11】※3

タイトル	地域防災活動Ⅲ（地域ボランティア）
実施月日（曜日）	平成24年9月18日（火）
実施場所	各町内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：成田 佳 所属・役職等：生徒会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	地域ボランティアを通して、地域の方々との交流を深めるとともに、地域内の危険箇所等を再確認する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 町内班長を活用し、町内会長との打ち合わせを行い、決定事項を町内班会で周知した。 当日 地域の一員としてボランティア活動を行った。また、各町内の危険箇所を散策した。 事後 得た情報を防災マップ作りに活用した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒，教職員，町内会長さんをはじめとする地域住民 ・メモ用の地域マップ，デジタルカメラ
参加人数	全校生徒148名，教職員20名，地域住民83名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】地域の方々とのコミュニケーションを取ることで，地域への理解が進んだ。 【課題】町内ごとの取り組み具合の差。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 12】※3

タイトル	防災マップづくり（防災マップのバージョンアップ）
実施月日（曜日）	平成24年10月1日（月）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：成田 佳 所属・役職等：生徒会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	2 防災に関する資料・材料づくり
達成目標	防災マップ作成を通して、災害や地域防災活動に対する意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 地域防災活動Ⅲの際に、危険箇所等の確認を行った。 当日 夏季と冬季の危険箇所等を比較しながら、防災マップを作成した。 事後 各地区の危険箇所等を他地区の生徒に説明した。また、学校祭で防災マップを掲示した。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・防災活動検討委員会を中心とした全校生徒 ・地域防災マップ原版、写真、マジック
参加人数	全校生徒148名、教職員20名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】夏季と冬季を比較することで、自分たちの地域に対する理解を深めることができた 【課題】マップの大きさに対する写真の配置や活用枚数
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 13】※3

タイトル	二中祭の取り組み（防災展）
実施月日（曜日）	平成24年10月7日（日）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：村井 洋右 所属・役職等：防災展示担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	12×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 行事
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	地域防災マップや避難所運営のアイデアなど、今年度の防災に関する作品などを展示することで、生徒、保護者や地域住民への啓発活動を行い、防災意識の高揚を図る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 防災展示の担当生徒の希望を募り、防災意識についてのアンケートを実施、集計、防災に関する啓発資料などを作成した。 当日 作成した資料、全校生徒が制作した地域防災マップを展示した。また、昨年度作成した防災DVDの閲覧ができるようにした。 事後 作成した資料を二中祭以降も校内に掲示した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・防災展示担当を希望した生徒を中心とした全校生徒 ・模造紙、マジック、写真 ・避難袋と防災グッズ
参加人数	全校生徒148名、教職員20名、地域住民来校者350名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 全校制作として各々のグループが取り組んできた地域防災マップを展示することで、他町内の様子も知ることができ、自分たちの活動が確認でき、成就感・達成感を味わった。また、防災に対するアンケートのまとめを見ることで、防災意識をさらに高めることができた。 【課題】 アンケート結果から、家庭の防災意識をさらに高める必要がある。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 14】※3

タイトル	炊き出し訓練（なべっこ）
実施月日（曜日）	平成24年10月24日（水）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	3×50分
プログラムのカテゴリ，形式※4	13 体験学習
活動目的※5	7 技術を身に付ける
達成目標	火起こしや炊き出しの実際に挑戦し，緊急時に対応できる能力を身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 炊き出し訓練の計画や役割分担について知る。 自衛隊隊員と連絡を取り合い，活動目的や当日の動きについて確認を行う。 当日 火起こしの行い方，なべによる炊飯と豚汁づくりの実施。 事後 感想記入と掲示。
準備，使用したもの ・人材 ・道具，材料等	・防衛省 秋田地方協力本部 大館出張所他隊員7名 ・全校生徒，全職員，地域住民 ・炊き出し用ガンガン，なべ，食材，ラップ
参加人数	全校生徒148名，全職員20名，自衛隊員7名，地域住民30名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】学校が避難所となったとき，中学生ができることを確認し，炊き出しの仕方を身に付けることができた。 【課題】自衛隊員との連絡調整を教師主導で行ったが，生徒が携わることのできる部分では生徒も活用したいものである。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また，1つのプログラムの記載ページ数，各項目の字数等の制限はありません。ただし，枠線の中に記載し，改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し，記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し，記入してください。

【実践プログラム番号： 15】※3

タイトル	小学校との交流Ⅱ
実施月日（曜日）	平成24年12月14日（金）
実施場所	大館市立積迦内小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：小松平由右子 所属・役職等：2年部主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習
活動目的※5	10 その他「学習したことを普及させる」
達成目標	同じ学区の小学生に積雪時の防災について説明したり、集団下校したりして、小学生の防災意識を高めるとともに、小中学校の連携を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 説明のための練習。 当日 小学校に移動後、小学校の町内児童会に参加し、地域ごとに積雪時の防災についての情報を説明する。その後、町内ごとに集団下校し、実際の危険箇所を確認した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・第二中学校2年生 ・地域防災マップ
参加人数	第二中学校2年生39名、積迦内小学校児童290名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】自分たちの取り組みの成果を広めることができた。自分たちより弱い立場にある小学生を守るとともに、地域の防災リーダーとしての自覚が育まれた。 【課題】小学校との距離があるため、定期的に連携を取ることが困難である。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 16】※3

タイトル	地域防災活動Ⅳ（除雪ボランティア）
実施月日（曜日）	平成25年1月12日（土）
実施場所	各町内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：村井 洋右 所属・役職等：教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域の除雪ボランティア計画を立案し、地域を雪害から守る実践力を身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 防災活動検討委員会にて除雪ボランティアの進め方を検討した。地域防災活動実施に向け、生徒と町内会長が話し合いを行った。 当日 地域の一員としてボランティア活動を行った。 事後 活動内容を掲示物やおたよりに載せて周知した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全校生徒，教職員，町内会長さんをはじめとする地域住民 ・スコップ，雪ベラ，スノーダンプ
参加人数	全校生徒148名，教職員20名，地域住民
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】自分たちが住む地域の除雪ボランティアを行うことで、地域連携が図られ、雪害を防ぐための実践力が身に付いた。 【課題】除雪ボランティア設定日に限らず、自分たちの判断の下、ボランティア活動を行っていけるようにしたい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 17】※3

タイトル	避難訓練Ⅱ（積雪時）・防災教育講演会
実施月日（曜日）	平成25年1月16日（水）
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：伊多波 卓美 所属・役職等：生徒指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 6 避難訓練 3 講演会
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	積雪時の安全確保や避難の仕方を身に付ける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	訓練 ・開催発生時の避難の仕方について ・積雪時の避難の仕方について 講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・全職員，全校生徒，地域住民 ・放送機器，避難誘導旗 ・文科省地域・学校支援推進室 連携支援 係長 長田 ・放送機器，PC，プロジェクター
参加人数	生徒，保護者，職員，地域住民
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】積雪時の安全な避難の仕方や知識が身に付いた。また，日頃から避難口の確保の大切さが理解できた。 【課題】地域住民への避難誘導の在り方や安全確保の仕方を検討したい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また，1つのプログラムの記載ページ数，各項目の字数等の制限はありません。ただし，枠線の中に記載し，改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し，記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し，記入してください。

【実践プログラム番号： 18】※3

タイトル	防災グッズ製作
実施月日（曜日）	平成25年1月28日（月）～ 実施予定
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：成田美智子 所属・役職等：教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	多機能フリース・ブランケットの製作を通して、自宅に必要な防災グッズをリストアップし、家族と一緒に準備をする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前 自宅での防災グッズの準備状況を調べる。 授業 製作（4時間） 防災グッズリストづくり（1時間） 事後 一定期間後の各家庭の準備状況に関する評価
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・材料（フリース、ミシン糸等）
参加人数	1年生55名
経費の総額・内訳概要	1人840円（フリース等800円、ミシン糸40円）
成果と課題	【成果】 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 19 】※3

タイトル	放射能に関する学習
実施月日（曜日）	平成25年2月(実施予定)
実施場所	大館市立第二中学校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：小松平由右子 所属・役職等：教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	放射線の性質を知り，正しい知識と判断力を身に付ける。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験を通して，放射線の性質について学ぶ。 ・放射線に関するDVDを視聴し，医療や製造業など，身近なところでその性質が利用されていることを学ぶ。
準備，使用したもの ・人材 ・道具，材料等	放射線観察のための実験器具(霧箱等)，DVD，PC，TV
参加人数	3年生54名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また，1つのプログラムの記載ページ数，各項目の字数等の制限はありません。ただし，枠線の中に記載し，改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し，記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し，記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした防災活動をめざし「積雪時の防災」をプランに盛り込んだ。しかし、時期が限定されるため、年間を通して地域と関わりをもてるよう計画立案した。また、計画立案時には、生徒が主体的に活動できるよう、生徒主催の防災活動検討委員会を立ち上げ、事業の推進に当たさせた。 ・避難所としての学校の在り方に取り組む上で、情報が少なく、どのような形で実践に結びつけていくか苦勞した。工夫点としては、消防や自衛隊などの機関と連携し、学校として必要とする情報を提供していただいた。 ・地域産業と防災の在り方に取り組む上で、住民感情に配慮するため、エコ活動や教科における学習とリンクさせながら実践に結びつけた。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が中心となって地域防災組織を立ち上げるにあたり、地域との連携や連絡体制の在り方等で苦勞した。しかし、これまで築きあげてきた、学校と町内会長のパイプを生かし、町内会長を窓口としてプランの立案と調整を行った。 ・生徒の主体性を育てるために、生徒主催の防災活動検討委員会を設置し、地域に役立つ中学生となれるようプランの立案・調整を行った。 ・防災教育に取り組みにあたり、教育課程内の時数をいかに割り当て、いかに生み出すか苦勞した。学校行事や長期休業等を上手に使用し、教育課程内で対応できるようにしたとともに、教科とも関連づけながら調整を行った。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の取り組みを土台として、今年度の重点である「地域との連携 および地域に根ざした防災活動の在り方」に関する実践を行うことができた。 ・昨年同様、職員の役割分担や組織的活動の際の共通理解に時間がかかってしまった。 ・今後も生徒の防災意識の高揚、実践力の育成、災害時の備えについて、継続して取り組んでいくことが大切だと考えている。

5. 他の団体，地域との連携

協力・連携先の分類	団体名，組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> ・大館市立積迦内小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の町内児童会において，本校生徒が作成した地域防災マップを活用し，危険箇所や防災施設について説明した。 ・本校生徒と小学校児童が集団下校を行った。
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習会や地域防災活動に参加し，生徒とともに活動した。
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> ・各町内会 ・学校支援地域本部（地域住民） ・積迦内地区まちづくり協議会 ・町内会長連絡協議会 ・婦人会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災活動にて，生徒の活動への協力を依頼した。 ・協議会が主催する講演会と避難訓練を組み合わせ，相互作用によって防災意識を高めることができた。
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・大館広域消防署 ・大館市教育委員会 ・防衛省 秋田地方協力本部 大館出張所 	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDを含む救急救命講習会の講師として協力をいただいた。 ・地域防災組織を立ち上げる際，被災地における中学生の活動の意義について講演をいただいた。 ・炊き出し訓練時に，火のおこし方や役割分担の仕方の指導をいただいた。
企業・ 産業関連の組合等	<ul style="list-style-type: none"> ・エコシステム花岡 ・東光コンピュータサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業と防災を考える上で，職場見学に協力いただいた。 ・地域防災マップバージョンアップにあたり，編集作業にアドバイスをいただいた。
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業，職能団体・ 学術組織，学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒中心の防災活動検討委員会を立ち上げたことで、防災に関する意識が高まったとともに、諸活動における主体性が育まれた。 ・様々な取り組みの結果、防災に関する知識や災害時における実践力が身に付いてきた。 ・地域に根ざした防災活動を展開したことで、地域住民の防災意識を向上させることができた。また、これまで培った地域連携をさらに深めることができ、地域と学校の一体感が醸成された。 ・生徒に「地域の防災リーダー」としての自覚が芽生え、また、将来にわたって、地域の一員として尽力するといった心情も育むことができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を通して、防災に関する知識や実践力を身に付けることができた以上に、地域連携やふるさとに対する愛着をもてたことに大きな意義があった。 ・年間計画を策定し、見通しをもった取り組みができた。教育課程内でできること、教育課程外で行うことを明示したことで計画的により実践的に活動することができたと思われる。 ・課題として挙げられることは次の4点である。 <ol style="list-style-type: none"> ① 想定外の災害への対応とマニュアルづくり ② 保護者との連携 ③ 防災教育の教育課程への位置付け ④ 危機意識を継続した取り組み
<p>今後の 継続予定</p>	<p>2年間の防災教育チャレンジプランの実践を受け、生徒や地域の防災意識や災害への実践力が身に付いてきた。この活動を継承し、次年度以降は次のような取り組みを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 活動内容の精選と継続的な取り組み 2 実践内容の集約と実践成果の還元

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

今年度の重点「地域との連携 および地域に根ざした防災活動の在り方」に関わる実践

中学生が地域の防災リーダーとなり、地域住民と共に活動することにより、地域の一員としての自覚と、地域防災の重要性を認識することができた。また、避難所コンテストや炊き出し訓練などの活動を通して、災害時に対応する知識や実践力を身に付けることができた。さらに、地域住民との交流が進むにつれ、地域とのつながりが強くなり、災害時、学校が避難所として機能するための基礎を築くことができた。以下にその具体的な取り組みを記す。

(1) 地域防災組織の立ち上げ

- 大館消防署員を招き、防災集会を開催した。防災活動に関するアドバイスをいただき自分たちの活動の重要性を再認識することができた。
- 町内会ごと話し合いをもち、要望や地域行事についての詳細をうかがいながら、今年度の取り組みについて話し合い、決定をした。



防災集会での消防隊員による助言



地域防災組織立ち上げのための町内会ごと話し合い

(2) 小学生との交流

- 7月と12月の2回実施した。7月には、夏バージョンの防災マップを、12月には積雪時の防災マップを加えたものを用いて、危険箇所やAEDの設置場所について、小学生を前に説明した。その後、小学生とともに集団下校した。

(3) AEDを含む救命救急講習

- 消防署から救急救命士を迎え、人形による胸部圧迫とAED操作を体験し、緊急時の対応について学び、実践力を高めた。生徒、教職員ほか、保護者・地域住民も多数参加しての講習会となった。



小学校での防災マップ説明後の集団下校
(7月)



AEDの使用方法の説明



小学校での防災マップ説明
(12月)

(4) 地域防災活動

- 夏休み中に、町内ごとに防災活動を行った。地域住民も参加して、町内の防災看板を作ったり、消火器の使用方法についての講習を受けたりした。
- 9月中旬には、地域行事（祭典）に参加し、地域住民と交流を深めた。
- 9月下旬には、3回目の地域防災活動を行い、各町内の危険箇所の様子を確認したり、地域住民とともに清掃活動を行ったりした。



地域防災活動Ⅰ 各町内での取り組み



地域防災活動Ⅱ 地域行事への参加



地域防災活動Ⅲ 各町内での取り組み

(5) 炊き出し訓練

- 自衛隊の協力を得て、炊き出し訓練を行った。地域防災に貢献する意義や、地域の防災リーダーとして、災害時に貢献できる実践的な実習を行うことができた。



自衛隊の協力による炊き出し訓練